

第2章

地区地域福祉活動計画

第3期津田地区地域福祉活動計画

基本理念 『みんなで創る、住みよいまち!』

全国的に少子高齢化に関する問題がおおきく取り上げられるなか、さぬき市も同様に少子高齢化は進んでおり、津田地区においては他の4地区よりもその傾向が著しく進んでいます。

津田地区の人口は、平成27年1月には、6,818人で平成22年1月7,449人から5年間で631人減少しています。高齢化率は、平成27年1月には38.4%(さぬき市32.3%)で、平成22年1月の33.3%(さぬき市28.0%)から、この5年で5%以上上昇しています。

津田地区には津田・鶴羽・北山の3小学校と津田中学校がありましたが、鶴羽・北山小学校は閉校となり平成22年より津田小学校一校となりました。

少子化が急速に進み、津田小学校の児童数も、平成22年の330人から、平成26年には239人に減少しています。

また、平成26年度で津田中学校は閉校となり、平成27年度より大川地区にあるさぬき南中学校と統合されます。毎朝の自転車通学の風景も見られなくなり、津田のまちから活気がなくなってきます。

このように地域が衰退していくなかで、人と人とのつながりが希薄化し、地域の中で支える側と支えられる側の人たちの高齢化も急速に進んでおり、支えあいの機能が低下しています。

今後は、若い世代に地域の活動への参加を呼びかけ、次世代の人材確保につなげることが大きな課題となっています。

これからさらに多様化するであろう福祉課題に対して、地域の中でお互いが助け合って解決できるように、住民と福祉機関が一体となって、住み慣れた地域で安心して、健康で、幸せに暮らせるまちづくりを築いていくことが大切だと考えられます。

○津田地区策定委員会の策定風景○



第3期津田地区地域福祉活動計画の取り組み

(平成27年度～平成31年度)

人材の育成

- 地域福祉推進員のスキルアップ講座の開催(継続)
- まちづくりの担い手の育成
- 研修会等による福祉意識の啓発
- 福祉委員の活動の推進
- 子どものときからの福祉体験



ふれあいの場づくり

- 地域でのあいさつ・声かけの推進(継続)
- 世代間交流事業への参加促進(継続)
- ふれあいサロンの活性化(継続)
- 地域で活動している団体の連携強化
- 子ども、障がい者、高齢者等への理解を深める



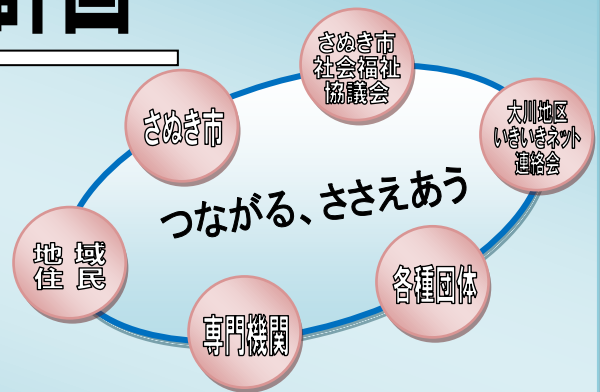
安心・安全なまちづくり

- 地域全体で子ども・高齢者等の見守り(継続)
- 注意喚起看板の設置(継続)
- 要支援者からの相談を受ける体制づくり
- 防災・防犯・事故防止の啓発活動
- 福祉・防災マップの作成



大川地区 地域福祉活動計画

地域福祉を進めていくためには、そこに住む住民一人ひとりがお互いに助け合い、思いやりを持って、地域の特色を活かしながら主体的に福祉活動に参加することが最も大切です。大川地区地域福祉活動計画策定委員会では、「地域福祉の向上」を目指し、今後5年間（平成27年～平成31年）の活動計画を策定しましたのでより良い地域の福祉社会が実現するよう皆さまのご協力をお願いいたします。



基本理念

みんながたのしく、住みやすいまち 大川
 ～地域ではどのような福祉ニーズがあるのか常に目を向けていこう～

基本目標 1

～ぐっとつながる～

ふれあい・支えあいづくり

地域社会を豊かなものにしていくためには、そこに住む住民の一人ひとりがお互いに支え合い、思いやり思っ、地域の特色を活かしながら自発的に福祉活動に参加することが最も大切です。身近なところで福祉活動に取り組んだり、多くの人とつながれるような活動を目指していきます。

実施項目

1. 地域でのふれあい交流の場づくり
 - ・ふれあいサロン活動の推進・支援
 - ・地域での交流活動、世代間交流の推進
2. 地域における支え合いの仕組みづくり
 - ・地域での見守り体制の充実
3. 地域福祉のネットワークづくり
 - ・多様な団体、活動をつなぐネットワークづくり

基本目標 2

～もっと活力～

地域福祉推進体制づくり

住民の福祉的ニーズが多様化する中で、住民主体の地域福祉活動への期待は大きくなっています。学習する機会をつくり人材を育成、気軽に交流できる協働の場の設置、地域の福祉資源の活用、また活動を推進していくための情報を取り込むなど、みんなが参加しやすい事業を目指していきます。

実施項目

1. 地域福祉の意識づくり
 - ・広報、啓発活動の充実
2. 地域福祉を担う人材を育てる環境づくり
 - ・地域活動の人材を育てる研修会の開催
3. 地域活動やボランティア活動の活性化
 - ・ボランティア及び各種団体の活動支援
 - ・地域ぐるみの健康づくりの支援

策定委員会の様子

このプランは地域より選出された23名の委員によって話し合い、計画されました



〔平成27年度～平成31年度〕

いっしょに 大川・ささえあいプラン

緑豊かな大川地区、豊かな自然とふれあいの中で、人々が健康で明るく思いやりの心をはぐくみ続けていく町を住民のみなさん、地域団体、専門機関、福祉施設などの関係機関、ボランティア、行政と手をたずさえてつくって行きたい、という願いをこめて『第3期 大川地区 地域福祉活動計画』を策定しました。

大川地区地域福祉活動計画策定委員会では、さぬき市の「地域福祉計画」、さぬき市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」と連携、協働し、住民の身近な課題に対応した地域福祉活動を計画的に取り込むために【3つの基本目標】を定めました。



基本目標3 ～ほっと安心～

安心、安全な環境づくり

地域の中で、ご近所同士の底力は計り知れないものがあります。隣近所で声を掛け合うことが日常のことであればこそ、いざという時はお互いに助け合えることにつながってくるものと思います。地震や風水害をはじめとした災害が発生し、いざとなった時の地域での避難体制の確保は必要不可欠なものです。

実施項目

1. 災害等の緊急時のための支援体制の充実
 - ・地域福祉(防災)マップの作成支援
 - ・小地域での防災訓練の実施
 - ・家具転倒防止用具設置支援事業の推進

地域福祉活動の進め方

①地域を知る

- ・地域の実情を把握

②地域で話し合う

- ・地域全体でどんな活動をするか話し合う

③地域を組織化する

- ・小地域福祉活動の拠点づくり

④地域で活動を起こす

- ・ニーズの把握⇒対応

⑤地域で振り返る

- ・他に課題はないか、次に何が必要か

大切なのは継続すること



志度地区地域福祉活動計画

誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らせることと、自主的、自立した、日常生活が日々送れるようお互いに支え合う地域づくりをめざします。

基本理念 『ふる里の輪・人・絆』

計画の重点目標

1. 地域福祉活動の推進

地域いきいきネットやふれあいサロン、自治会単位で実施されている、地域住民の参加による地域課題解決のための福祉活動について、行政や関係機関、関係団体との連携や支援を強化し活動の多様化を図ります。

活動内容

- ① 小地域間のネットワークづくり
- ② 「いざと言う時」のための防災対策の強化
- ③ 安心・安全を実感できる防犯体制の構築
- ④ 心の豊かさやゆとりをはぐくむまちづくり
- ⑤ 地域に根ざした「交流の場」づくり
- ⑥ 残存施設の有効利用を促進する拠点づくり
- ⑦ 福祉課題や生活課題への対応



2. ボランティア活動の推進

住民の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるために、支え合い活動をベースにしたボランティア活動を推進し、市民の皆様や民間企業の方が活動に参加しやすい環境をつくるために情報や支援を行い、災害などに対するボランティアを育成しています。

活動内容

- ① 防災ボランティアとしての知識取得の機会の提供
- ② 気軽に参加できるボランティア活動の推進
- ③ 専門分野ごとのボランティア派遣の推進
- ④ ボランティア活動の広報推進



3. 交流の場、ひと、支え合いづくりの推進

だれもが自立し、快適で豊かな生活を送ることができる環境をつくり、思いやりと、優しさ、ひととひととの助け合える支え合いの心をもった温かいひとをつくることで、住民自らが、福祉のまちづくり、暮らしづくりを行う地域福祉活動を行います。

活動内容

- ① 地域福祉活動の後継者やリーダーの育成
- ② 見守りを必要とする人々への支援体制や仕組みづくり
- ③ 緊急時や災害時における支援方法の確立づくり
- ④ 地域全体で安心してこどもが育てられる環境づくり
- ⑤ 思いやり、やさしい心を育てる福祉教育の推進



4. 情報の発信、収集

地域のボランティア活動、地域福祉活動等いろいろな情報を地域住民に伝え、各種行事、イベントに参加しやすいように情報発信を行います。

活動内容

- ① 情報誌の発行(クローバー等)
- ② 研修会の開催(地域福祉推進員等)
- ③ 情報交換会の開催(見守り活動団体等)
- ④ 情報収集手段の構築(ニーズキャッチ)



地域を良くしたい思いで、地域福祉活動計画を策定しました。



寒川地区の地域福祉活動計画

基本理念

「**温もりを感じるまち**」… 山河・Sungawa・寒川

～人も地域も元気な町に～

地 域

課 題

自治会組織の繋がりが希薄化するなか、災害時等の共に助け合う「絆づくり」が必要である

高齢・障がい者

課 題

核家族化により一人暮らし世帯や老老介護世帯などの援護を必要とする高齢者や障がい者が増えている

子どもたち

課 題

少子化により、異年齢での繋がりや地域との関わりが少なくなってきた。

基本目標

- ・地域の繋がりづくり
- ・出会いの場づくり
- ・交流づくり

- ・集える居場所づくり
- ・仲間づくり
- ・相談できる場づくり

- ・地域の宝づくり
- ・将来の担い手づくり
- ・三世代伝承づくり



《住民組織》

自治会長・福祉委員・民生委員・いきいきネット・老人クラブ・婦人会・ボランティア・ふれあいサロンなど

協働

《専門機関》

市役所(地域包括支援センター)・病院・学校・警察・消防・施設・事業所・社協など

具体的な取り組み

地域の絆

- ・地域見守り隊の結成 … 向こう三軒両隣り活動 ～ 地域「絆」づくり
- ・自治会単位の要援護者世帯の調査
- ・福祉委員活動の理解と活動支援
- ・地域での人材の有効活用 … 退職した有資格者等の活用
- ・災害に強いまちづくり
- ・みんなが集まれる行事の開発 … 情報交換の場づくり
- ・空き家や空施設の有効利用

要援護者対策

- ・ふれあいサロン活動の推進
 - … 子どもから障がい者・お年寄りまで集まれるサロン
- ・だれでも立ち寄れる「居場所」づくりの開発 … ひきこもり防止対策
- ・行事を通じてのふれあい・見守り活動の推進
- ・緊急連絡体制の充実
- ・福祉施設との共同事業の開発 … 福祉施設・人材の協力

子どもたち

- ・地域で見守る体制づくり … 子どもたちへの安全・安心パトロール活動
- ・高齢者からの知恵袋を受け継ぐ伝承活動の推進
- ・少子化対策事業の推進
 - … 「子育て・結婚」などの相談に関する支援
- ・青壮年を中心とした地域での担い手づくり
- ・福祉教育の推進 … 高齢者や障がい者などの理解

- 地域の人々が繋がることで… 日常の見守りや災害時の助け合いにも繋がっていかう
- 何か困りごとがあったら… 一人で悩まず 地域で「声」をひろい、みんなで考えよう

● 寒川地区策定委員会の風景 （第2回グループワーク）

「3回の開催」

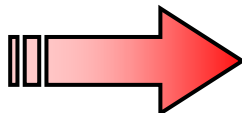


基本理念

人と人とのつながり

～お接待のころを大切にすまち～

課題



解決案

高齢者、障がい者

- ・一人暮らしや認知症への不安、8050問題
- ・老々介護や家族の負担による介護疲れや虐待
- ・ゴミだし、買い物や移動手段の不安
- ・介護やサービスが必要な方の待機問題
- ・様々な問題を抱え込んでしまう。
- ・理解や意識不足により他人事として見ている。

子ども、若者

- ・地域内でも知らない子供がいる。
- ・地域とのつながりが弱い。
- ・地域や世代での交流がない。
- ・一人親世帯が増加し、生活に不安がある。
- ・子どもの虐待

自治会

- ・自治会に入らない世帯の増加
- ・自治会長の責任が薄れている。
- ・福祉委員の活動が見えない。
- ・地域のリーダー不足

防災

- ・防災に対する意識に温度差がある。
- ・個人情報の問題から要支援者等の把握が困難である。

キーワード → 正しい知識と理解

- ・認知症や障がい者に対する正しい理解
- ・介護保険制度や障害者総合支援法等の仕組みを知識として知っておく。
- ・相談窓口や民生委員さんの紹介
- ・福祉委員、地域リーダーの育成

キーワード → 地域で見守り、居場所

- ・登下校時や遊んでいる時にも見守り・声かけ
- ・地域で見守りが必要
- ・憩いの場的なものをつくる（ふれあいサロン、公民館活動等）
- ・認知症等の早期発見

キーワード → 参加したくなる接点づくり

- ・楽しいことや未来につながることの提案、愛する故郷を守る方法、子どもや自治会も含めた関わりのある行事の実施

キーワード → 生活に密着した防災意識

- ・施設・学校・自治会等関係団体すべての連携と協力
- ・災害時にとるべき行動の周知
- ・危険個所のチェック、防災マップの作成、訓練



地域での具体的な活動

正しい知識と理解

- 認知症高齢者、障がい者等への理解啓発を進めよう。
- 福祉研修会に積極的に参加しよう。
- 地域福祉推進員(自治会長、民生委員、福祉委員)の連携を図ろう。
- 福祉委員の活性化を進めよう。
- 地域のリーダーを育成しよう。
- 施設見学に積極的に参加しよう。
- 情報の共有を図ろう。

地域で見守り、居場所

- 住民みんなへの声かけ、あいさつ運動を進めよう。
- ふれあいサロンをつくろう。継続して開催しよう。
- 隣・近所でチームを作って見守り活動を進めよう。
- 住民座談会を開催しよう。
- 地域ぐるみで子育てを支援しよう。
- 困りごとを抱えている人を関係機関に繋げよう。
- 地域の事を知っておこう。

私

家族

隣近所

自治会・地区

ボランティア・各種団体

参加したくなる接点づくり

- 福祉活動のきっかけづくりとなる企画やイベントを小地域で実施しよう。
(福祉まつり、ウォーキング、クリーン作戦等)
- 自治会内でみんなが参加できるイベントを開催しよう。
- ふれあいサロンに子どもたちも呼んで、顔が見えるようにしていこう。
- イベント用具の貸出を活用しよう。

生活に密着した防災意識

- 防災訓練や学習会を通して防災意識の啓発を進めよう。
- 地域で防災マップづくりを進めよう。
- 災害時の高齢者、障害者等の避難態勢づくりを進めよう。
- 家族で避難場所や危険箇所、災害時にどうするかを話し合おう。

みんなであいさつ



向さう三軒両隣で

みんなで見守る地域へ

